

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 横浜国立大学教育学部附属横浜中学校

Olympic  
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

#### 挨拶（5分）

#### 準備運動（10分）

#### 主運動（30分）

#### まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

### 座学の時間

#### 挨拶・自己紹介（10分）

#### オリンピックの価値を伝える（10分）

#### グループワーク（20分）

#### まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実施内容

- 期 日：平成30年6月28日（木）
- ク ラ ス：2年A組（45名）、2年B組（45名）
- オリンピアン：高橋 成美 先生（スケート・フィギュアスケート）



## ■授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限）

### 1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、今日は2時間の授業を通してオリンピックについて学ぼうと授業の目的を確認。運動の時間ではオリンピックバリューを意識して、楽しく取り組んでほしい、と伝え準備体操に移る。

### 2. 準備体操



### 3. 主運動



・3チームに分かれて8の字跳びを実施。制限時間内（1・2回目90秒、3回目120秒）で跳べた合計回数に、引っかけた回数に応じて跳んだ回数に加点し、得点を競う。



### 4. まとめ



・運動の時間を通じて、クラスのチームワークを感じられたことがよかったと話し、結果よりも、全力を尽くし皆で協力し合い、ルールを守って取り組めたかが大切だと伝える。次の座学の時間ではオリンピックバリューやオリンピックについて更に詳しく学ぼうと予告し、授業終了。





■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・最初に座学の流れを確認し、オリンピックの基礎知識やオリンピックシンボル、クーベルタンについて説明。  
 ・映像やスライドを使用しながら、高橋先生の経験を基に3つのオリンピックバリューについて説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：運動の時間に意識したこと、工夫したこと、頑張ったことをオリンピックバリューに当てはめて考える。  
 発表：目標に向かってベストを尽くす、勝つことに集中しすぎず楽しむ、個人の勝利ではなくチーム全体の勝利に貢献する(エクセレンス)、失敗しても励まし合う、次に跳ぶ人がカバーする、互いの意見を尊重する、お互いを信頼して役割を決める(フレンドシップ)、相手チームにも拍手を送る、負けても勝者を称える、フェアプレーを意識し他の班と同じ条件の下戦う(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・今日学んだことを基にこれまで以上にオリンピックに興味を持ってほしい。東京2020大会では、横浜でサッカーと野球とソフトボールの試合が開催されるので、皆も選手として出場するだけでなく、ボランティア、観客等、さまざまな形でオリンピックに関わってほしいと伝え、授業終了。

# 実施内容

■期 日：平成30年6月28日（木）

■ク ラ ス：2年C組（45名）

■オリンピアン：小口 貴子 先生（スケルトン）



■授業のながれ：運動の時間（5時限）

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、スケルトン競技について氷の滑り台を頭を下に向けて時速130kmほどのスピードで滑り降りること等を紹介。  
・運動の時間では「ベストを尽くすこと」、「協力し合い、困っている人がいたら助けてあげること」、「ルールを守ること」の3つを約束し、準備体操に移る。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳びを実施。引っ掛かったら50から数え直し、90秒間で連続して跳べた回数を競う。全3回実施し、各回終了後に作戦タイムを設け、回数を増やすための工夫を話し合う。

## 4. まとめ



・小口先生から授業の冒頭に話した3つの約束をしっかり守ってくれていたことを伝え、次の座学の時間は、運動の時間に取り組んだ内容とオリンピックがどのように繋がっているのかを考えようと予告し、授業終了。





■ 授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・小口先生が出場した平昌大会の映像を見せながらスケルトン競技について紹介。
- ・オリンピックバリューについて、小口先生がオリンピックに出場するまでの経験を基に説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：皆の生活の中にあるオリンピックバリューを考える。
- 発表：勉強や部活等どんなことでも諦めないでベストを尽くす、部活等の大会でベストを尽くして勝利をつかむ、時間を守る(エクセレンス)、お互いの良いところも悪いところも言い合う、友情関係を築くために約束を守る(フレンドシップ)、宿泊学習や職場体験等でお世話になった方に敬意を払う、登下校時の電車で席を譲る等のマナーを守る、相手を思いやりて接する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・ベストを尽くすことで目的や目標に近づくことができ、一生懸命取り組んでいる人には皆が協力してくれるので、周囲の人にも感謝や思いやりを持って行動してほしいと伝える。
- ・東京2020大会では、今日学んだオリンピックバリューも意識しながら見てほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年A組



2年B組





■ 集合写真

2年C組



■ 記念品贈呈

2年A組



2年C組



2年B組



■ 修了書贈呈

